

**B 個別学習 (B 4)**

## 主な学習活動

オリジナルカレーを友達に紹介する英文を書き、その英文を紹介し合う活動の練習に取り組む。

**1 本時のねらい**

食材を通じて世界のつながりを考え、オリジナルカレーのメニューを発表することができる。

**2 主に活用したICT機器・コンテンツ等**

授業支援

マイク付イヤホン

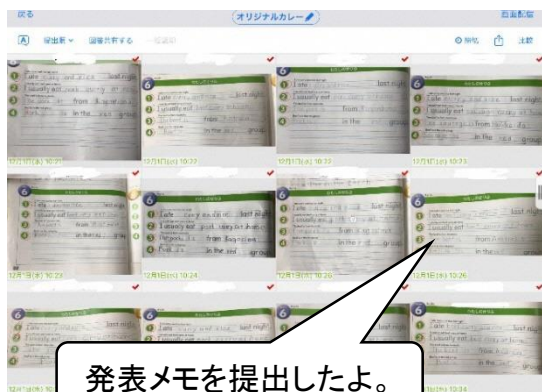
**3 参考にしてほしいポイント**

児童は書いた英文を授業支援アプリ「ロイロノート」で提出する。ALTが英文を確認し、つまずきのある児童に個別に対応する。その後、発音練習の様子を録画し、ALTにチェックしてもらったり友達にコメントをつけてもらったりする。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	オリジナルカレーを友達に紹介する英文を書く。 次時に発表するために、英文を読む練習を行う。	ALTは児童が提出した英文を順にチェックをし、すぐに返却する。修正が必要な場合は個別に指導を行う。その間、学級担任はつまずきのある児童の指導に当たることができる。 また、授業支援アプリ「スクールタクト」で動画を共有することで、音声だけでなく、顔の表情や身振りをチェックしたり、友達同士で認め合いのコメントを付けたりすることができる。

タブレット

+

マイク付  
イヤホン

発表メモを提出したよ。

友達が録画した動画に  
コメントをつけたよ。**4 活用効果**

ロイロノートでの提出により、授業の中で個に応じて指導できる時間が増えた。その結果、児童のつまずきが予想された英文づくりが早めに終わり、発表のための練習に時間を割くことができた。また、スクールタクト内に動画を共有することで、ALTと学級担任が「話すこと【発表】」の活動において、共通理解を図りながら児童の学習状況を確認することができた。

**5 アドバイザーからのコメント**

ALTが、多くの子どもたちの英文を同時にチェックするという仕組みを実現しています。子どもたちは自分の机の前にタブレットがありますので、まるで家庭教師のようにチェックしてもらっているという感覚になります。すぐ傍にいるという感覚が、効果を高めています。(東京工業大学 赤堀侃司)

記述や映像を記録として残すことで、ALTとの複数名体制による個別最適な学びの実現が期待できます。特に文章記述の個別指導については、今後AIのサポートを受けることが期待できるため、現在のうちからテキストデータとして蓄積を進めておくことが望まれます。(福島大学 平中宏典)